

# 04

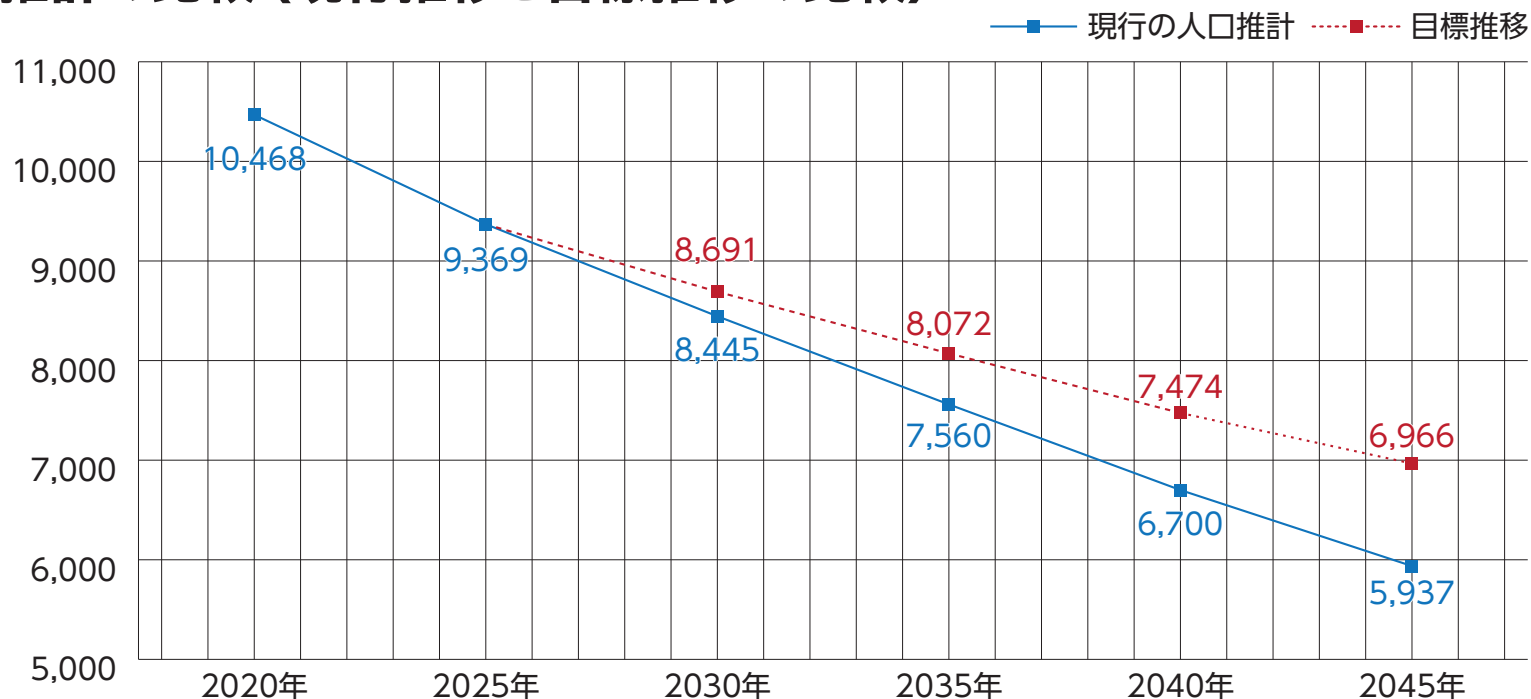
実現への取り組み

## 人口面での目標設定およびKGI

### 邑南町が目指す姿に近づくための取り組み

「つながり」と「挑戦」を大切にするまちづくりを進める上で人口減少は大きな課題です。また、人口の総数だけでなく世代間のバランスも重要な視点となります。

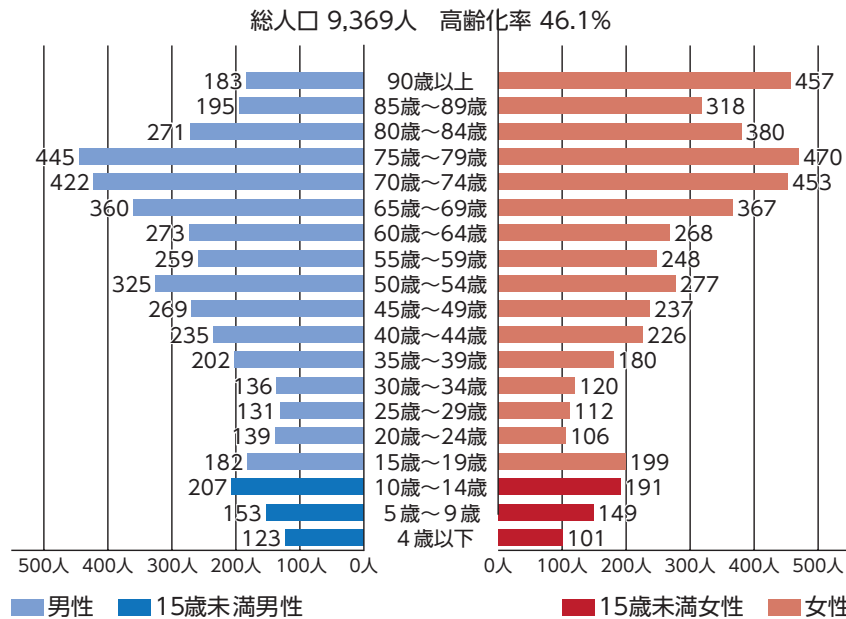
#### 人口推計の比較（現行推移と目標推移の比較）



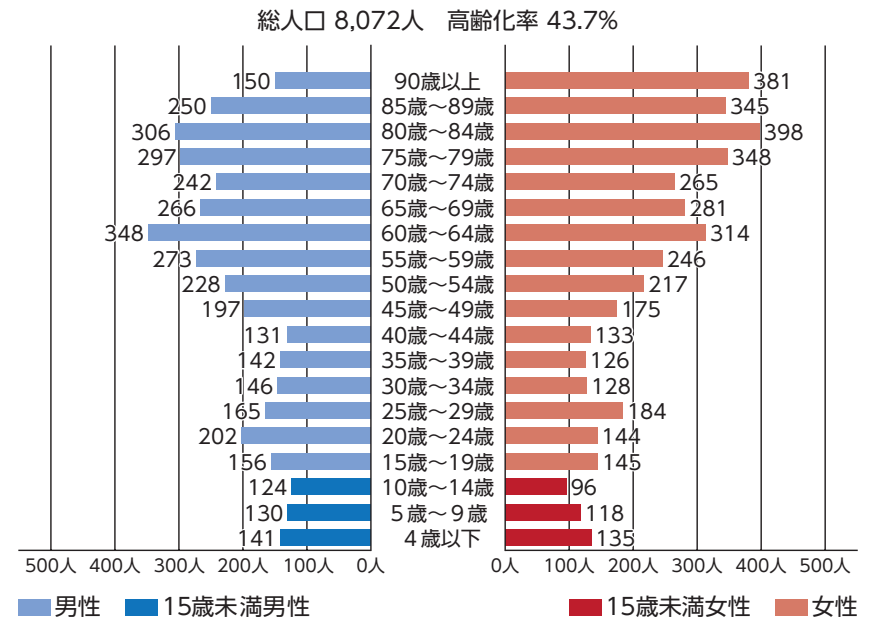
出典：島根県中山間地域研究センター「人口推計シートver3\_250901」（住民基本台帳令和2年4月末データおよび令和7年4月末データに基づく）より作成

現行の推計に基づく、2035年には人口が8,000人を割り込み、7,500人台に到達すると予測されます。町として、「2035年に8,000人を維持」という目標を掲げ、あらゆる手立てを講じていきます。

## 人口ピラミッド 2025年（集計値）



## 人口ピラミッド 2035年（目標値）



出典：島根県中山間地域研究センター「人口推計シートver3\_250901」（住民基本台帳令和2年4月末データおよび令和7年4月末データに基づく）より作成

現在の人口ピラミッドと「2035年に8,000人を維持」という目標を実現した場合の予測値の比較です。総人口とともに、15歳未満の人口にも着目し、10年後の最重要成果指標としてKGI（重要目標達成指数）を定めます。

## KGI（重要目標達成指標）

総人口	15歳未満比率（人口）	幸福度（NPS）
8,000人	9.3%（744人）	100%

# 04

実現への取り組み

## 10年後の町の姿

邑南町が 10 年後に目指す姿を4つの視点から考えました。

### ●ひと

子どもの学びが充実し、  
大人がいきいきと  
挑戦している姿がみえる

### ●しごと

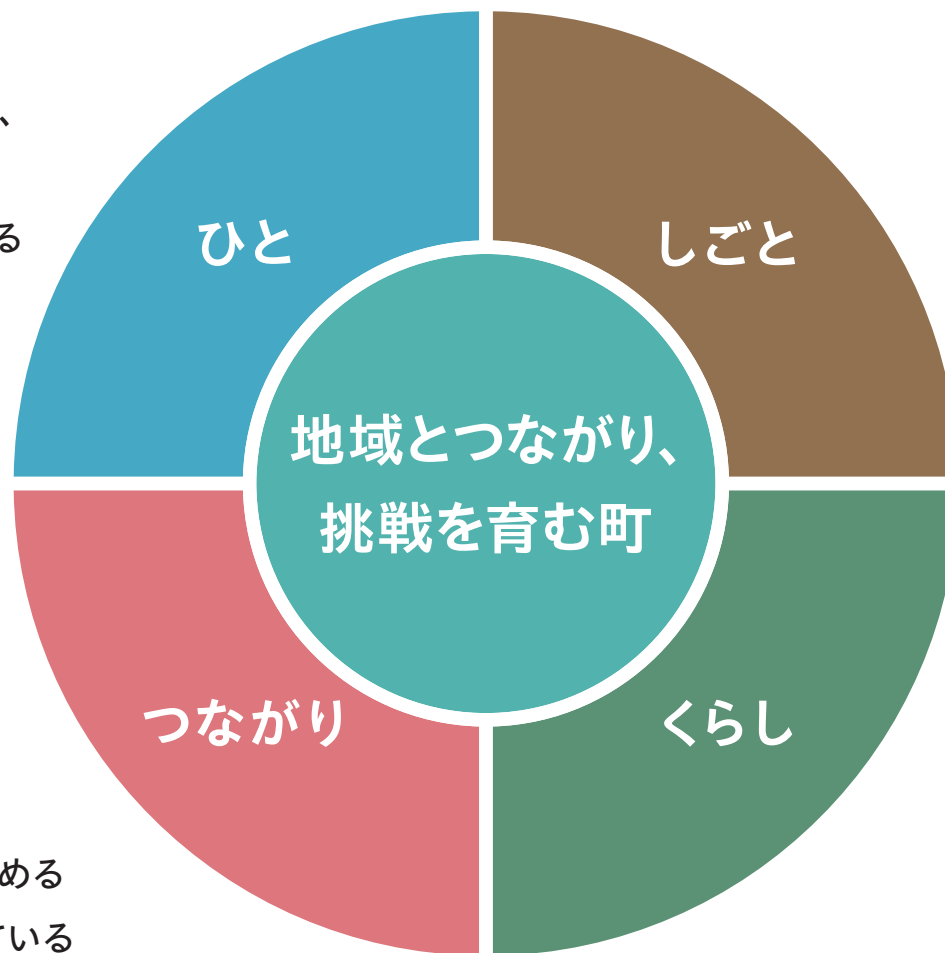
地域の様々な産業が  
協働することで  
高付加価値化が図られている

### ●つながり

誰もが安心して  
邑南町での暮らしを望める  
地域福祉が実現されている

### ●くらし

実空間のインフラと  
デジタル空間のインフラが  
整備され、充実している

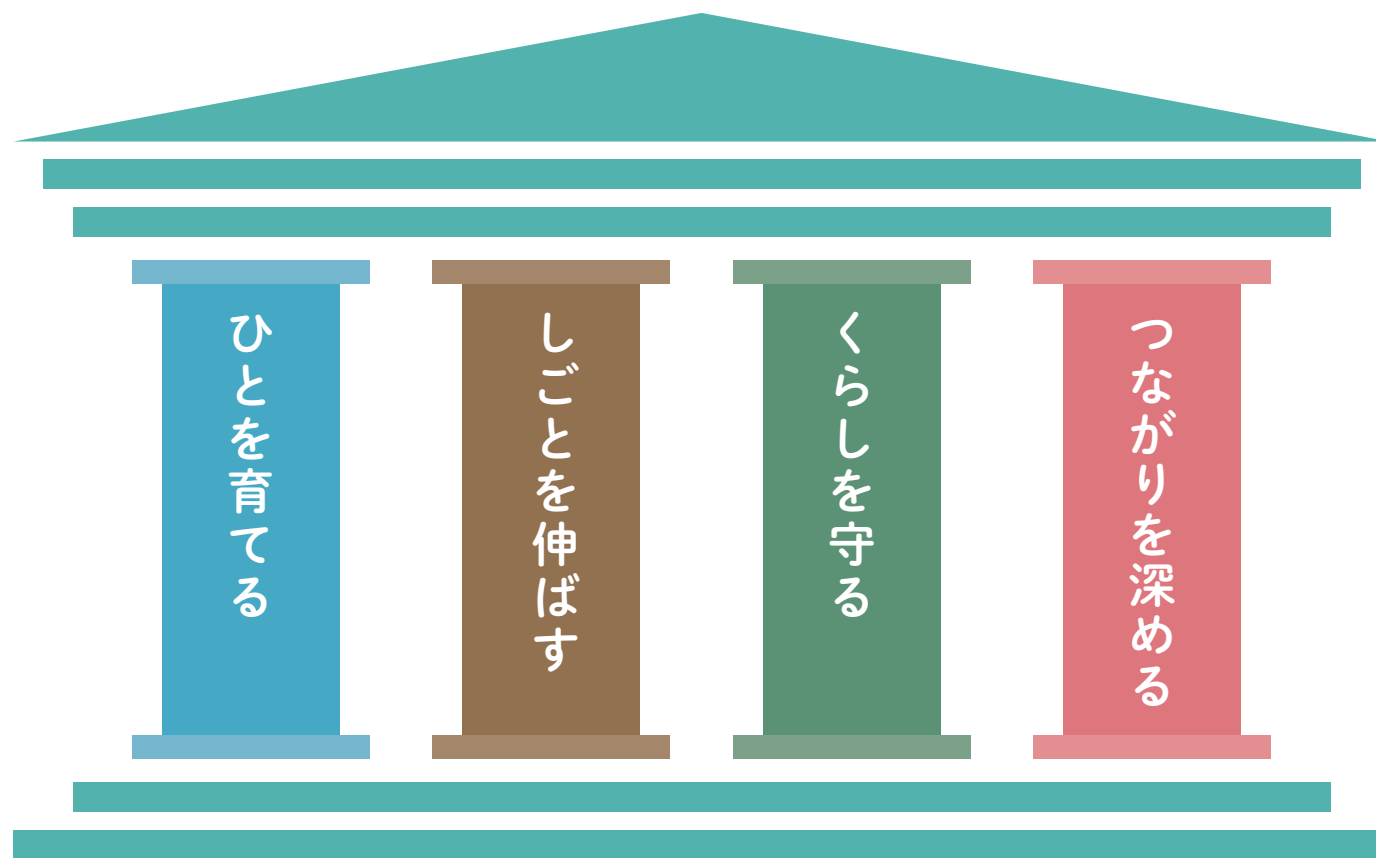


# 04

実現への取り組み

## 4つの柱

理念である「地域とつながり、挑戦を育む町」を実現するために、4つの柱と27の取り組み方針を掲げ、これに取り組みます。



本計画は町と町民・事業者の皆さんとともに推進していくための指針として策定します。現在の幸福度・満足度を保ち、さらなる向上のために共に歩んでいきましょう。



理念

# 地域とつながり、挑戦を育む町

## ひとを育てる

### 挑戦を育てる学びのコミュニティ



安心できる教育環境と地域のつながりで  
未来の人材を育むまちをつくる

- I. 地域社会で共に育てる「子育て環境」の向上
- II. 幼少期からの健康づくりで心も身体も大事にケア
- III. 学校・家庭・地域が一体となった「おおなん学」の推進\*
- IV. 邑南町の教育にあった学校の在り方の研究・実現
- V. 地域での活躍を後押しー邑南町の未来を描く学び
- VI. 公民館エリアの地域資源を生かした教育の充実

## しごとを伸ばす

### 「おおなんブランド」を基盤とした挑戦の促進



ブランド化や多様な働き方を支援し  
地域を支える産業の高付加価値化を図る

- I. テクノロジーを活用した持続可能な農林水産業\*
- II. 豊富な森林資源の有効活用と循環型林業の確立
- III. 起業・第二創業等の町内事業者の挑戦を支援
- IV. 道の駅や農産物直売所を起点に観光による経済波及
- V. 邑南町の新たなイメージ戦略とその活用
- VI. 邑南町の自然を守り・活かすー環境産業の推進
- VII. 多様な働き方ニーズを満たし、働くひとを応援
- VIII. 事業承継・組織連携・人材確保を通じた事業継続支援

- I. 道路網維持と施設の長寿命化でインフラを次代に継承
- II. 山と川、生物多様性を保全し、安定した水源を確保\*
- III. 町民の生命と財産を守る―災害・獣害を防ぐ地域の備え
- IV. 誰もが利用しやすい超高速通信インフラの展開
- V. スマート化による効率的な地籍調査
- VI. 住まいづくりと空き家活用で移住・定住支援



生活基盤の整備と環境保全で  
世代を超えて安心できるまちをつくる

誰もが安心できる心地よいふるさと

くらしを守る

理念

# 地域とつながり、挑戦を育む町

- I. 多様な力を結集した地域コミュニティの育成\*
- II. 地域での暮らしをあきらめない医療・福祉の推進
- III. 外国人も含めた多文化共生のまちづくりを推進
- IV. 使いやすい交通手段・移動支援の仕組みづくり
- V. 災害からしなやかに立ち上げられる防災体制づくり
- VI. 環境衛生の推進と循環型社会の実現
- VII. DXの推進による利便性の高いまちづくり



多文化共生・持続的なコミュニティづくりで  
地域で暮らし続けられる環境を創出する

多様なつながりが生み出す信頼が循環する町

つながりを深める

\*＝戦略的重点プロジェクト

# 06

戦略的重点  
プロジェクト

邑南町第3次総合振興計画

## 戦略的重点プロジェクト

本計画で示す政策・事業は、いずれも本町にとって重要なものですが、  
戦略的重点プロジェクトは、様々な取り組みの中でも、今後5年の間で  
特に重点的に取り組む4つのプロジェクトを指します。

戦略的重点プロジェクトに取り組むことで、本計画の理念  
「地域とつながり、挑戦を育む町」の実現にむけ  
効果的に取り組みます。



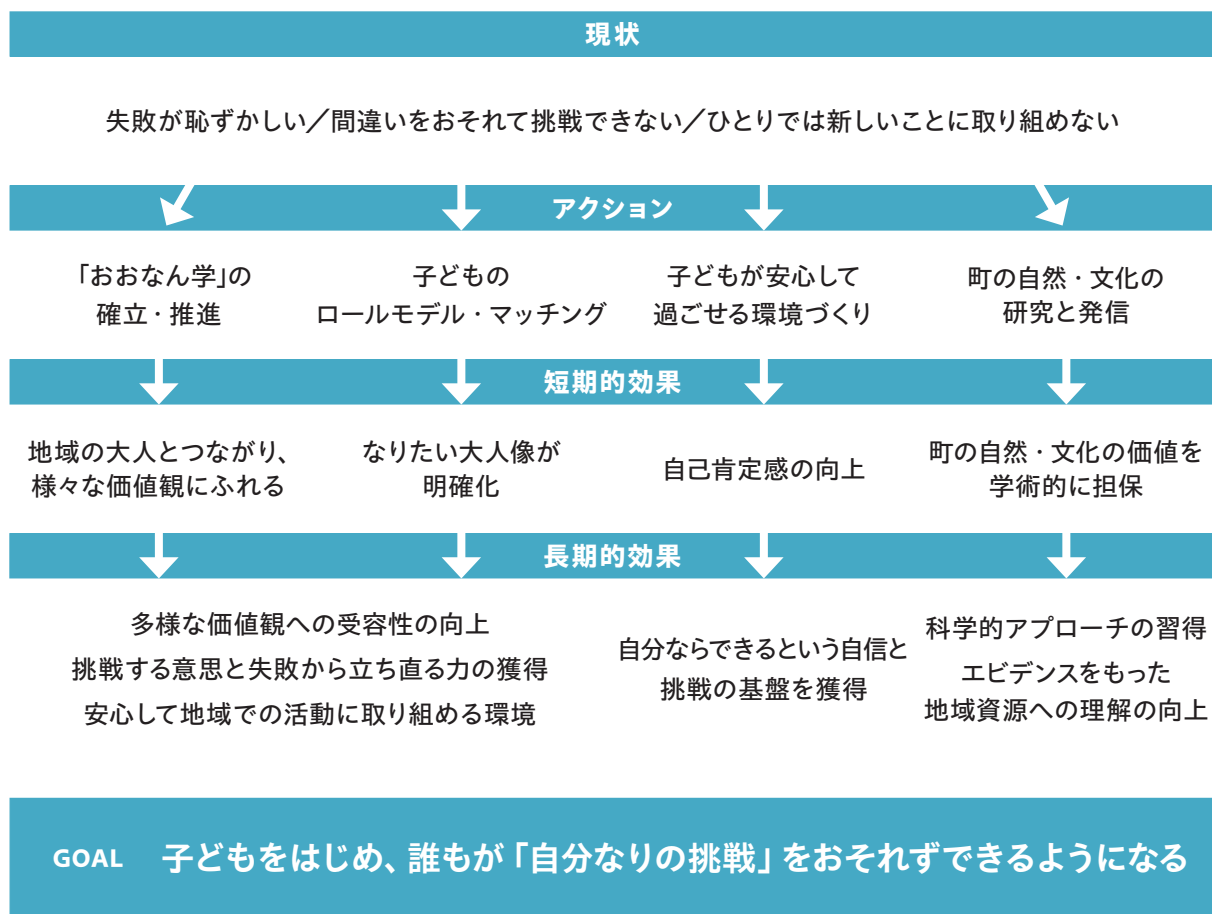
# 06

戦略的重点  
プロジェクト

## ひとを育てる

# 学校・家庭・地域が一体となった「おおなん学」の推進

これまで長年培ってきた「ふるさと教育」をベースに、邑南町のことを更に深く知るための「学び」を学校・家庭・地域が一体となって支援する取り組みです。こうした取り組みを通じて、子どもたちには、「自分なりの挑戦」をおそれずできる子どもになってほしいと考えています。また、子どもとの関わりを通じて、大人たちもまた学び直し、挑戦できる人づくりへとつなげていきます。



目的
○挑戦に踏み出せる安心領域をつくる
○自らを導いてくれたり、サポートしてくれる存在を認識する
取り組み内容
○「おおなん学」の確立・推進
○子どものロールモデル・マッチング
○子どもが安心して過ごせる環境づくり
○町の自然・文化の研究と発信
期待する効果
○様々な大人の「生き方」を学び、「失敗」を重ねて今に至っていることを理解する
○地域の中での理解者が増えることで活動を安心して行えるようになる
○地区ごとに人や資源に特色があることを知る

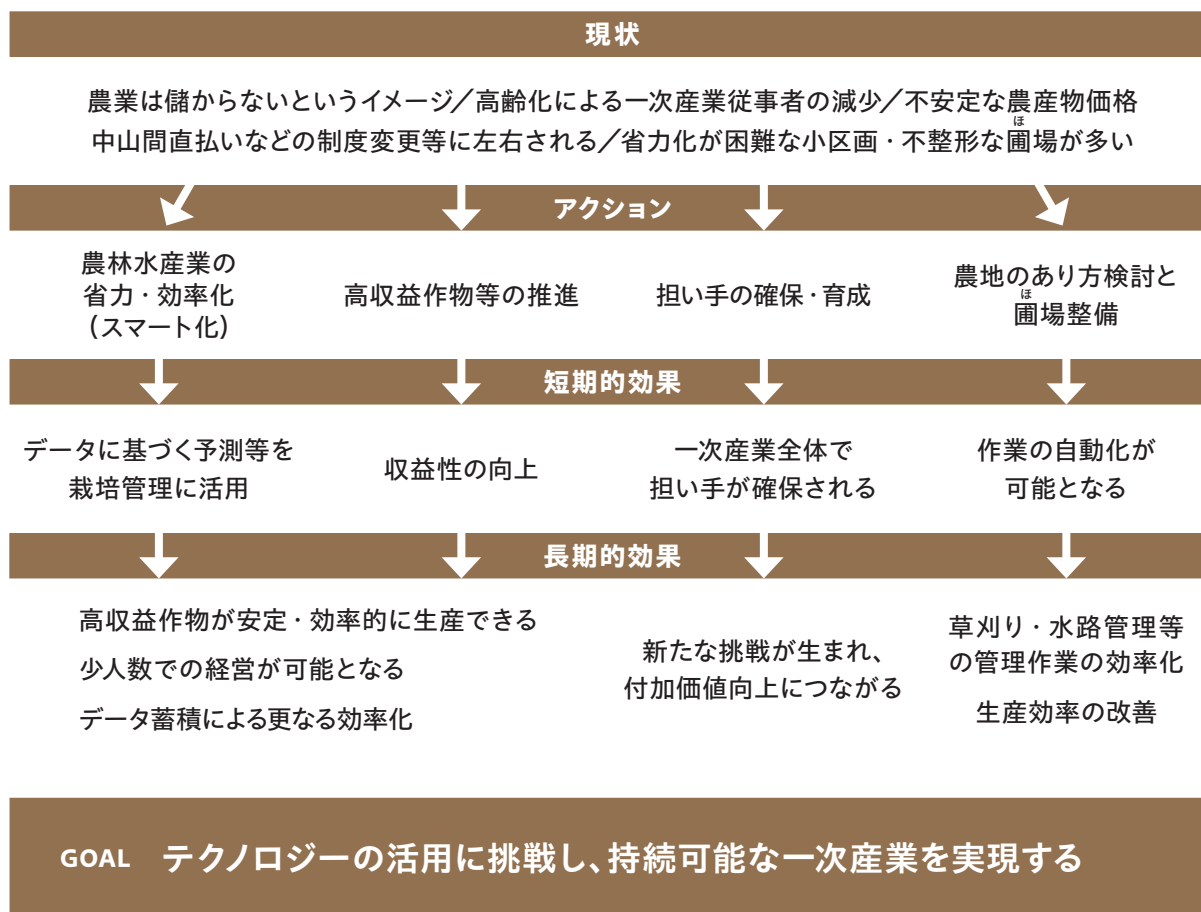
# 06

戦略的重点  
プロジェクト

しごとを伸ばす

## テクノロジーを活用した持続可能な農林水産業

高齢化や人口減少に伴う担い手不足など農林水産業を取り巻く厳しい状況下において、特に本町の基幹産業のひとつである農業に対しては、省力化による圃場管理負担の軽減、気候変動等に対応した生産安定化、高品質な高収益作物の生産による所得の向上を目的としたデジタル技術やAI等のテクノロジー導入を推進し、持続可能な一次産業の実現を目指します。



- | 目的  |
|---|
| ○生産性向上・作業の効率化及び品質向上、<br>高付加価値化による所得向上             |
| ○経営の効率化及び担い手の確保・育成に<br>よる労働力不足の解消                 |
| 取り組み内容  |
| ○農林水産業のスマート化を推進                                   |
| ○高収益作物等の導入  |
| ○担い手の確保・育成  |
| ○地域での農地維持のあり方検討と圃場等<br>の整備                        |
| 期待する効果  |
| ○主業農家(担い手)が増加する                                   |
| ○テクノロジーを活用して少人数でも可能<br>な経営が実現される                  |
| ○第2段階の圃場整備や設備の自動化等<br>の効率的経営の基盤が整い、担い手への<br>集積が進む |

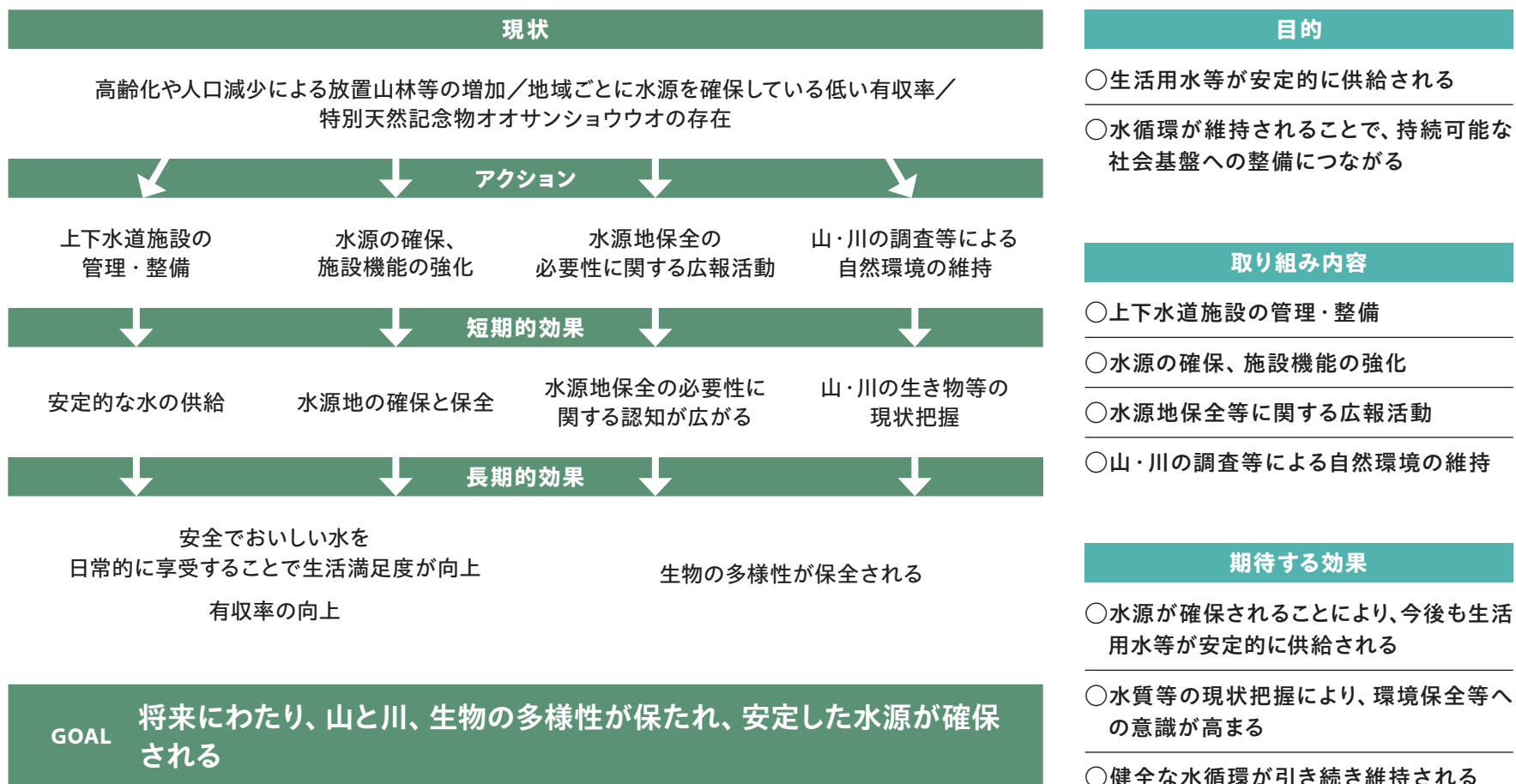
# 06

戦略的重点  
プロジェクト

## くらしを守る

# 山と川、生物多様性を保全し、安定した水源を確保

中国山地の中央に位置し、総面積の86%を豊かな森林が占める本町において、江の川やその支流などから得られる自然の恵みを守ることは重要な取り組みです。豊富な地下水・水資源を引き続き確保し、将来にわたり安定した供給が行われるよう水源地となる森林環境等保全の必要性を広く周知するとともに、特別天然記念物オオサンショウウオに代表される生物多様性の保全にも取り組みます。





# 06

戦略的重点  
プロジェクト

## つながりを深める

# 多様な力を結集した地域コミュニティの育成

人口減少や高齢化を背景に自治会をはじめとした各団体等に求められる「役」の負担が課題となっており、自治会や地区諸団体の統合などを経て、少数でも持続的に運営が可能な仕組みとして「地域運営組織」の形成を推進しています。今後も多様な意見を拾い上げ、より多くの人の共感と合意を得られるような体制づくりを支援していきます。

